

情報処理に関する学生の意識調査¹⁾

社会学部 米谷 淳

問題

現代の社会は、情報が重要な役割を持ち、また情報を処理するための機器の普及・発展によって新しい産業がますます発展する情報化社会といわれている。そこでは、情報をうまく処理していくことがきわめて重要な課題となっており、そのための道具としてコンピュータが広範囲に使われている。そして、このような傾向はこれからますます顕著なものになっていくと考えられる。

このような社会に生きていくためには、直接的に情報処理の仕事に携わらない場合であっても、その基本ぐらひは十分に理解しておくとともに、コンピュータを実際に用いて情報処理を行なう基礎的な力を身につけておくことが大切である。そのような情報処理の基本を知っておくことは、今や、現代人の常識であるといっても過言ではないであろう。

そこで、奈良大学では教養課程として、一般教育科目の中に『情報科学』を設置している。まさに、一般人として恥ずかしくない知識を身につけることを目的として開講されているのである。特に社会学部においては、専門教育科目に『電子計算機概論Ⅰ・Ⅱ』、『プログラム言語Ⅰ・Ⅱ』等が開講されており、『情報科学』に比べ、より専門的に情報処理について学ぶことができる。

さらに、奈良大学における設備として情報処理センターがあり、情報処理に関するカリキュラムとともに、学生に対し施設面で情報処理学習のできる機会を提供している。

しかし、実際に学生がそのような機会を有効に活用できているか疑問である。コンピュータは習うより慣れることが大切である。すべての学生が気軽にコンピュータを活用できる場所——それが情報処理センターではないか。ところが、その情報処理センターに対し、学生はあまりいい印象を持っていないのが実状である。大学側にとって、学生に積極的に活用してもらいたい施設であるのに対し、学生の意識は、大学の意図とは反しているのではないだろうか。

本研究は、以上のことをふまえて、奈良大学の情報処理教育のあり方を、ヒューマン・インターフェースの観点から検討するため、学生の情報処理科目や情報処理センターに対する意識や現状を把握しようとするものである。

脚注 1)

この調査は米谷が企画し、その指導の下で有田康弘君が実施、分析したものであり、この報告は平成4年度奈良大学社会学部卒業論文として提出された。

情報処理センターについて

奈良大学情報処理センターは、学生にコンピュータについての広い知識と技術を体得してもらい、これからの社会生活を有効に過ごしてもらうためにもうけられたものである。センターを最大限に活用できるように、すべての学生に利用資格がある。センターの活用については次の通りである。

1. ソフトウェア・端末機等の利用

利用したいソフトウェア、端末機等が申し出ることによって利用でき、必要に応じてプリンタに出力できる。

2. 携帯型パーソナルコンピュータ (98NOTEnv) の貸出

情報関連授業を受講している学生、もしくは操作法講習会において資格を付与された者は、携帯型パーソナルコンピュータの貸出を受けることができる。

3. プログラム相談

プログラムを作成、修正などをしていて、自分で解決できない場合には、センターの教員が相談に応じる。

調査の概要

1. 目 的

奈良大学における情報処理教育のあり方を検討するため、本学の学生の情報処理関連授業や情報処理センターに対する意識や現状を把握することを目的とする。

2. 対 象

奈良大学の学生60名。できる限り学科、学年、性別が疎らになるようにして、対象をなるべく一、二回生を中心に当てるようにした。

3. 方 法

対話形式によるインタビュー

4. 期 間

平成4年10月1日～11月10日

5. 質問項目

- ・受講しているか、していないか？

まず、情報処理関連授業を受講しているか、していないかについて質問した。さらに受講している者にはその授業を受講した理由や、受講しなかった者へは受講しなかった理由まで詳しく聞いた。

- ・役にたつかどうか？

受講した者へは「実際受講してみて内容はどのようであったか」、また受講しなかった者へも「情報関係の授業は役に立ちそうに思うか」について聞いた。

- ・センターのイメージについて

「センターに対してどのようなイメージを持っているか」といった抽象的な質問をした。

- ・センターについて満足な点、不満足な点

それぞれセンターについてだけでなく授業や施設、指導者についてなど幅広く答えてもらった。

以上のような質問をなるべく形式張らず、普段の会話の口調で質問し、気楽な気持ちで答えてもらった。

集計結果

1. 回答者（表1）

60名の学生に回答してもらった。学科・学年が疎らになるように心がけたが、やはり回答者が0というところも出てきた。

なるべく情報処理関連の授業がある学年に近い方がいいという意図で対象を当てていたが、結果的に二、三回生が中心になった。

表1 回答者の分布

	国文		史学		地理		文化財		社会		産社		計
一回生	0	0	3	1	2	0	1	1	2	0	1	0	11
二回生	1	1	1	11	4	0	0	2	1	2	1	0	24
三回生	1	1	2	1	1	2	4	0	4	0	0	0	24
四回生	0	1	2	0	2	0	1	0	1	1	1	0	8
学科別合計	5		21		11		9		11		3		60
学部別合計	46						14						60

(※数字の左側は男、右側は女)

2. 履修状況

- ・受講している (いた) ……………43名
- ・受講していない……………17名

表2 受講していた人の回答者に占める割合

学 科	a. 受講していた	b. 回答者(人)	a / b × 100(%)
国 文	5 (3)	5 (3)	100.0
史 学	12 (9)	21 (13)	57.1
地 理	9 (2)	11 (2)	81.8
文化財	6 (2)	9 (3)	66.7
合 計	32 (16)	46 (21)	69.6
社 会	8 (3)	11 (3)	72.7
産 社	3 (0)	3 (0)	100.0
合 計	11 (3)	14 (3)	78.6

(括弧内は女子の人数である)

「受講していた」と答えた人の人数の割合としては、学部別にみるとやはり社会学部の方が高かった。学部による情報処理の必要性の違いが現れたのであろう。学科別に注目してみると、地理学科の81.8%というのが目立つ。これも学科の特色による情報処理の必要性に関係してくるのであろう。(表2)

表3 受講していない人の回答者に占める割合

学 科	a. 受講していた	b. 回答者(人)	a / b × 100(%)
国 文	0 (0)	5 (3)	0.0
史 学	9 (4)	21 (13)	42.9
地 理	2 (0)	11 (2)	18.2
文化財	3 (1)	9 (3)	33.3
合 計	14 (5)	46 (21)	30.4
社 会	3 (0)	11 (3)	27.3
産 社	0 (0)	3 (0)	0.0
合 計	3 (0)	14 (3)	21.4

(括弧内は女子の人数である)

3. 受講動機

受講した理由

- ・将来の役に立つと思ったから……………10名
- ・興味があった……………11名
- ・コンピュータが使えるようになりたかった……………8名
- ・他にとるものがなかった……………8名
- ・何となく取った……………6名
- ・単位が取りやすい……………5名
- ・学科で必要……………2名

受講した理由で一番多いのが、意外に「興味があった」ということであった。おそらくコンピュータは初めてという人であろうけれども「面白そうだったから」、「いじりたかったから」というのが学科の差なく回答された。

「将来の役に立つと思ったから」という回答も、学科別にみると、やはり地理、社会科学の人が多く、全体的にも四人に一人の割合でそう答えている。

その次に多かったのは「コンピュータが使えるようになりたかった」というので、これは「時代の流れを意識して取った方がいい」や「最先端の物をやらないと時代の波に乗れないから」といった情報化社会である今日では当然出てくる理由である。

「他にとるものがなかった」というのも以外に多かった理由である。「時間が空いていた」などのカリキュラム上のことや、「自然科学の中で他のものがいやだった」などの意見もあった。

中には、「何となく面白そうだったから」や「単位が取りやすい」などといった情報処理の本質とは全く無関係な回答もたくさん見受けられた。

また、ゼミや学科で必要であるといったしかたなく取ったような理由もいくつかあった。

「将来の役に立つから」

国文	史学	地理	文化財	社会	産社
0	1	4	0	2	1

「興味があった」

国文	史学	地理	文化財	社会	産社
3	3	1	2	1	0

「コンピュータが使えるようになりたかった」

国文	史学	地理	文化財	社会	産社
0	3	2	0	2	0

「他に取るものがなかった」

国文	史学	地理	文化財	社会	産社
2	3	1	1	1	0

「何となく取った」

国文	史学	地理	文化財	社会	産社
0	1	0	2	1	0

「単位が取りやすい」

国文	史学	地理	文化財	社会	産社
0	1	1	1	0	1

受講しなかった理由

- ・抽選にもれた……………9名
- ・興味がない……………4名
- ・課題が大変そう……………2名
- ・レベルが低い……………1名
- ・自分にとって不要……………1名
- ・その他……………2名

「興味がない」

国文	史学	地理	文化財	社会	産社
0	2	0	1	1	0

受講しなかった人のうち半数の人が抽選にもれたため取れなかった訳で、少なくとも取りたいという意志はあったわけである。この点は学生の意志に反する学校側の受け入れの体制に問題があるといえる。

4. 授業について

受講した人

役に立つかどうか？

(回答数28)

- | | |
|------------------|-------------------|
| ・役に立つ……………13 | ・役に立たない……………15 |
| 「統計やグラフなど役に立ちそう」 | 「それっきりになってしまう」 |
| 「ワープロを打つのに役立つ」 | 「1年間ではできない」 |
| 「キーボードには少しは慣れた」 | 「ただ言われた事をやっているだけ」 |
| | 「実戦力はない」 |

授業を受講した人に実際役に立つかどうかを質問したところ、過半数の人から役に立たないという回答が返ってきた。役に立つと答えた人でもはっきりしたものではなく、「将来役に立ちそう」や「キーボードに慣れた」と言うぐらいであった。

授業について？（43名中）

- 難しくて分からなかった……………13名
- 先生がいや……………5名
- 面白くなかった……………4名
- 面白かった……………4名
- もっと詳しく基本的な事をしてほしい……………4名
- 期待はずれ……………2名
- その他……………4名

授業を受講した人のほとんど授業について不満を抱いている。一部の人には「簡単すぎてつまらない」と言うものもあるが、「難しくて分からなかった」という人が13名もいたのは注目すべきであろう。

受講していない人

役に立ちそうか？（回答数9）

- ・役に立ちそう……………8
- ・役に立たない……………1

受講していた人の半数以上が役に立たないと答えたのに対し、受講していない人ではほぼ全員が役に立ちそうと答えた。受講していた人との間に対照的な結果がみられた。

5. センターのイメージについて

受講していた人

- | | |
|---------------|-----------------|
| プラスイメージ……………7 | マイナスイメージ……………29 |
| ・きれい | ・入りにくい……………15 |
| ・気軽に入れる | ・堅苦しい……………4 |
| | ・行きたくない……………3 |
| どちらでもない……………3 | ・手続きが面倒……………2 |
| ・機械がたくさんある所 | ・その他……………6 |

センターについてもっているイメージを質問したのだが、受講していた人について圧倒的にマイナスイメージを持っている人が多かった。「堅苦しい」や「手続きが面倒」というのも入りにくさについての要因であると考え、ほとんどが「入りにくい」というイメージを抱いている事になる。

一方、若干ではあるがプラスのイメージを持っている人もいるが、「気軽にに入れる」という人もいるものの、「きれいである」といった設備的な要因がほとんどで、親しみの要

因につながるイメージはほとんど聞かれなかった。

受講していない人

プラスイメージ…………… 4	マイナスイメージ……………13
・最先端	・入りにくい…………… 6
・きれい	・その他

受講していない人の間でもマイナスイメージが多かった。しかし、「入りにくい」と言うのが半数を占めたものの、それ以外は取っていた人に比べて抽象的なイメージが多かった。

6. 満足な点について 情報処理センターについて満足している点を聞いたところ、次のような回答が得られた。

受講した人 (43名中)

- ・設備が整っている……………16名
- ・施設がきれい…………… 9名
- ・98ノートの貸出…………… 6名
- ・簡単に利用できる…………… 3名
- ・パソコンに触れた点…………… 3名
- ・分からないところを教えてくれる…………… 3名
- ・その他…………… 4名

受講した人が満足に思っていることは、設備や施設、貸出の点でほとんどを占めた。設備に関しては、オンラインのことや台数、性能の良さについて等が聞かれた。施設に関しても、床や手洗いなど快適性、すなわち居心地の良さによるものであった。98ノートの貸出のことがやはり多かった。

受講していない人 (17名中)

- ・開放されている…………… 5名
- ・98ノートの貸出…………… 4名
- ・施設がいい…………… 3名

受講していない人で以外に多かったのが「開放されている」という答だった。しかし、そのように答えた人は皆センターに対しては近づきがたいというイメージを持っていて、本人が開放されていることによって活用しているのではなく、やりたい人にとって開放されているという意味であった。

受講していない人にとっても98ノートの貸出は共通の満足な点であり、学生に対しても学校側の有効な提供であるといえる。

7. 不満な点について

受講した人

- ・指導者について…………… 8名
- ・センターの雰囲気について…………… 7名
- ・機械の取扱について…………… 6名
- ・利用時の問題について…………… 7名
- ・許容人数について…………… 7名
- ・施設について…………… 9名
- ・設備について…………… 5名

不満な点については、多少イメージについての回答と重なる部分もあるが、大体7つの項目に分類できた。指導者については、先生の態度に不満を持っている人が多く、分からないときに不親切であったり、丁寧でない等であり、また、教えてくれる人が常にいないというのもあった。センターの雰囲気については、入りにくいというのや、あまり開放されていないというのがあったが、せっかくだからもっと使いたいという意見も聞かれた。機械の取扱については、機械の使い方が難しくて分からなかったり、なかなかうまく使えないといった操作が難点であるという事である。利用時の問題については、学生証の提示など手続きの点や、受付の人の態度や、閉まる時間が早いという不満であった。許容人数については、コンピュータが1人に1台当たらないということや人数制限があることで、課題をするとき大変であるということがあった。施設については、その他の意見をまとめたのだが、黒板が見えにくい、スリッパの快適性、雨の日に行きにくい等、それぞれ違った意見が回答された。設備については、パソコンが古い、フロッピーの変換装置がないなど設備が整っていない点である。その他に、授業について1年でしかも週に1回というのは少なすぎるという意見が聞かれたが、このことは今後、カリキュラムを検討するときに考慮すべきことである。

受講した人

- ・授業を取っていないと入りにくい…………… 6名
- ・人数に制限がある…………… 3名
- ・使い方がよく分からない…………… 2名
- ・その他…………… 5名

受講しなかった人にとって、授業を取っていないために入りづらいというのが最も多い不満であった。その他にも、3.5インチのフロッピーがないことや、閉まる時間が早いなどがあった。満足な点に関してもいえることであるが、受講していないだけに、何とも言えないというのが回答者の率直な意見であった。

討議

この調査は、情報処理関連の授業や情報処理センターに対する学生の意識や実状を把握するために行ったのであるが、集計結果から見る限り、学生にとって授業はあまり役に立たないという認識があり、情報処理センターについても有効には活用されていないことがわかった。このままでは、学生と情報処理との関係がますます疎遠なものになる可能性がある。このことは、かなり深刻な問題であり、これからの社会の担い手であるはずの学生の、いわゆる「コンピュータ嫌い」を助長することになりかねない。そのためにも大学側は、早急に今の情報処理教育のあり方を検討しなければならない。

まず、授業についてであるが、結果を見てもわかるように将来の役に立つためや、コンピュータを使えるようになりたいというのが受講の理由の大半を占めているのに対し、実際受講してみて役に立たないと思った学生がほとんどであった。学生の授業に対する期待に、学校側が答えられていないのである。授業内容に関して、今一度見直す必要があるのではないだろうか。今回の調査を行っている中で特に注目できる回答で、文学部にも続けてできるようなカリキュラムがほしいというのがあったが、これからの社会では学部をこえた人材が必要である。つまり、文学部だからコンピュータは必要でないというのは、今や時代遅れな考え方で、そういったカリキュラムは今の時代では必要であるといえる。

また、授業をとりたくても抽選によって受講できない人がいるという点についても問題がある。希望者が予想以上に多くて仕方がないのであれば別であるが、毎年のことであるにもかかわらずこのような状況のままであることは、学生の教育を受ける権利を無視したものであり、今すぐでもクラスを増やすなどといった対応をしなければならない。

次に情報処理センターについてであるが、学生が圧倒的にセンターに対してマイナスイメージをもっているという結果がでた。学生にとって情報処理センターが、『気軽にコンピュータを活用できる場所』でなければならない。センターは授業をとってなくても入れる場所でなければならない。そのためにも、あらゆる講習会など、実際に役に立つ課外講座—現在就職課が中心に講座を開いているが—をセンターが中心になって開設しなければならない。

ただ、現状として、センターが行っている98ノートの貸出については、ほとんどの学生の支持を得ており、設備の整っている点とともに、有効な学生に対する支援であるといえる。

今後の課題として、情報処理センターなどの施設やコンピュータなどの機器を利用する上で、近寄り難いものにならないよう、初めての人にとっても分かりやすいものでなくてはならない。そのためにも『良いマニュアル』作りが必要になってくると考える。